

3.実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

)学校独自の体力向上アクションプランの実施による子どもたちの体力向上推進	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>各学校における課題と取組内容の整合性を図った体力向上アクションプランにおいて、本県の課題である柔軟性を高める運動(ジャックナイフストレッチ)の継続的な実施を県内全ての小・中・高校で位置づけたところ、柔軟性が上昇傾向に転じたが、小学校男女、中学校男女ともに全国平均と比べて低いと、今後も引き続き柔軟性の向上のための取組を行う必要がある。また、小学校においては、筋力の低下が引き続き課題であり、筋力の向上につながる力強い動きも体力向上アクションプランに加えて取り組んでいく必要がある。</p> <p>ジャックナイフストレッチ:足を肩幅に広げてしゃがみ込み、膝と胸をつけた体勢から足首をつかみ、最後まで膝と胸が離れないように注意しながら足を伸ばして一定時間体勢を維持する柔軟性を高める運動</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>各学校における課題に応じた取組を体力向上アクションプランに位置づけて実施することで、課題が改善され体力向上につながるが見えてきた。今後、各学校の体力向上アクションプランに対して、指導・助言を行うことで、さらに充実したものにし、体力向上推進の柱としていく。</p>
)教員の指導力向上により子どもたちが運動を好きになり、意欲的に運動に取り組む姿勢を育成	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>指導者研修会等や専門的知識を持った外部指導者の派遣などにより、教員の指導力向上に一定の効果が見られた。今後も、教員が新学習指導要領への理解を深め、「知って、わかって、できて、楽しい体育授業」の実践に積極的に取り組み、子どもたちの意欲的に運動に取り組む態度に反映されるよう、さらに指導力の向上を図ることが課題である。</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>今後も、引き続き研修会や外部指導者の派遣に取り組んでいく。特に、小学校教員は、教科の専門性にかかわらずすべての教科指導を行うことから、経験年数が浅い教員や体育の学習指導が苦手という教員の研修受講を重点的に進めていく。</p>
)指導者の資質向上による運動部活動の充実	
<p>実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>指導者の資質向上の土台となるマネジメント(県版ガイドラインの周知)や指導の工夫・改善に関して、レベルアップを図ることを目的として研修会等を実施し、その結果として、令和元年度にはガイドラインに即した休養日を設定している中学校・高等学校は100%となり、大幅な改善がみられたが、活動時間等については、まだ長時間の活動をしている学校もあり、県版ガイドラインに沿った取組を実施させることが課題である。</p>	<p>課題解決に向けた方向性</p> <p>今後も県版ガイドラインに沿った取組が確実に実施されるよう周知徹底を図るとともに、「部活動の在り方に関する検討委員会」の設置により、持続可能な運動部活動の方向性を模索していく。また、外部人材を活用して経験者を配置することは、部活動指導の充実だけでなく、教員の負担軽減を図ることができるため、部活動指導員の配置拡充を進めていく。</p>

4.令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
		所管課(室)名	(令和2年度の新たな取組は「R2新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目	学校体育研究推進費	<p>令和2年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は、新型コロナウイルスの影響により、中止となったため、結果が出ないことになったが、これまでのデータを参考とし、体育授業における課題や運動が苦手な子どもも楽しめる授業づくりを推進するとともに、臨時休業にともない運動機会が減少した影響による体力低下を解消するための対策にも取り組む。</p> <p>また、「長崎県運動部活動の在り方に関するガイドライン」により示した適切な休養日の設定や活動時間などについて、引き続き、周知・徹底を図り、生徒にとって望ましい運動部活動の環境整備に努めることとしている。</p>		<p>)学校独自の体力向上アクションプランの実施による子どもたちの体力向上推進 継続的な学校独自の体力向上アクションプランを作成し、児童生徒の体力向上を図る。 ジャックナイフストレッチの実施を継続するとともに体力低位の児童生徒の体力向上に取り組んでいく。</p> <p>体力向上の実践研究に取り組む小学校体育専科教員の配置拡充を検討する。</p> <p>)教員の指導力向上により子どもたちが運動を好きになり、意欲的に運動に取り組む姿勢を育成 研修内容の良さや生かし方等を盛り込んだ研修広報資料の作成や国の研修講師による研修会の継続的な実施により、指導力向上を図り、「体育の授業で運動のやり方やコツがわかった」児童生徒の割合を向上させる。</p> <p>また、子供たちが運動を好きになるよう、親子体力向上実践セミナーを引き続き実施する。</p> <p>「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を分析し作成したプログラムの内容を県内の学校へ広めていく。</p> <p>)指導者の資質向上による運動部活動の充実 指導者の資質向上に向け、運動部活動指導者研修会にアスレティックトレーナー等の専門的人材を招聘するなど、充実を図る。</p> <p>引き続き、「長崎県運動部活動の在り方に関するガイドライン」の周知徹底を図る。</p>	改善
		体育保健課				

2	取組項目	運動部活動指導員配置事業費	「教師の勤務時間の上限に関する方針」との関連から、教職員の負担軽減に関する時間的な縮減効果をねらいとした活用を最優先とし、超過勤務対策に貢献できるよう、学校や市町教育委員会に対して周知をはかり、配置を希望する学校を増やしていく。	運動部活動指導員について、本年度配置校や他県での有効な活用方法事例の情報収集を行い、更なる効果的な活用方法について検討を行うとともに、その情報や検討内容について、各種会議等などの機会を捉え県内市町へ広めていく。	改善
		体育保健課			

注:「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- 視点 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- 視点 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- 視点 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- 視点 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- 視点 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- 視点 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- 視点 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- その他の視点